

一般社団法人 環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会
第1回表彰式

日時：2018年7月3日（火） 17：10より

場所：タワーホール船堀 大ホール（東京都江戸川区船堀 4-1-1）

受賞者

学会賞 田畑 日出男 氏（いであ株式会社 代表取締役会長）

（受賞理由）：田畑氏は、学会発足の発起人として準備活動に奔走された。学会発足後、副理事長として6年にわたり学会運営を指導・支援された。特に、研究発表会では実行幹事になるとともに、いであ株式会社から多数の運営支援者の協力をいただいた。田畑氏のおかげをもって本学会の運営が成り立っていたといっても過言ではなく、本学会の発展に著しい貢献があったと認められる。

学術賞

西嶋 茂宏 氏（福井工業大学 教授）

秋山 庸子 氏（大阪大学大学院 准教授）

（受賞理由）：西嶋、秋山両氏は、汚染土壌などの減容化におけるセシウムの挙動する多くの論文を学会誌に発表するなど、環境放射能除染に関する学術研究の進展に顕著な貢献があったと認められる。

技術賞 株式会社 日立製作所 およびグループ各社（ガンマカメラ開発チーム）

（受賞理由）：見えない放射線を可視化するガンマカメラの開発を行い、その応用として除染現場で使用されるなど、除染技術の進展とリスクコミュニケーションに顕著な貢献が認められる。

奨励賞

川崎 興太 氏（福島大学共生システム理工学類 准教授）

（受賞理由）：川崎氏は、毎年、継続的に、福島県内の全59市町村に対するアンケート調査等に基づき、除染に関する実態の分析や課題の抽出を行っている。復興の行政主体である市町村の意見・認識を詳細かつ体系的に整理した一連の研究であり、学術的な記録として重要な意義を有している。

倉持 秀敏 氏（国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 室長）

（受賞理由）：倉持氏は、既存研究に関する詳細な文献調査に基づき、課題、問題点を取りまとめ、事故由来の放射性廃棄物の熱処理に関する総説として発表している。また、的確な実験計画によりセシウムの揮発除去のメカニズム等の研究で成果を上げている。

市川 有二郎 氏（千葉県環境生活部大気保全課 元 千葉県環境研究センター）

(受賞理由)：市川氏は、除染作業とその効果についての一連の報文で、千葉県内の公共施設などで観測された放射能汚染をどのようにして除染していったかが、作業に従事した科学者の目を通して報告されており、客観性のある報告になっており、また、記録としても意味のあるものである。

功労賞

河津 賢澄 氏（福島大学共生システム理工学類 特任教授）

(受賞理由)：事故時の対応から始まり、除染のための幅広い活動をされるとともに、本学会の立ち上げ当初から 6 年間理事を勤め、研究発表会の実行委員長としても活躍された。また、多くの除染活動でのアドバイスを行っている。これらの活動により、福島の実環境の改善及び本学会の発展に著しい貢献があったと認められる。

三友プラントサービス株式会社

(受賞理由)：三友プラントサービス株式会社様は、本学会発足時より、学会運営、研究発表会の実行委員等に多大の支援を行ってきており、本学会の発展に著しい貢献があったと認められる。

福島大学放射線計測チーム

(受賞理由)：原発事故直後の 2011 年 3 月 19 日にスタート。福島県内各地の放射線量をいち早く実測し、マップ化するなどしてわかりやすく情報提供。そのデータは計画的避難区域の設定をはじめ、多くの施策に活用された。また、原子力災害について、データに基づき理解し対応していく基礎を築いた。これらの活動により、科学・技術の進歩発展及び福島の実環境改善に著しい貢献があったと認められる。